

中国エイズ孤児絵画展『紅いパン』

福田康夫JPFP名誉会長、阿部俊子外務副大臣が開会式に出席

12月11～14日に日中友好会館美術館（東京都文京区）で、中国エイズ孤児絵画展『紅いパン』が、香港 NGO 法人智行基金會と東京世田谷中央ロータリークラブの主催、中華人民共和国駐日本国大使館文化部および JPFP 事務局を務める（公財）アジア人口・開発協会（APDA）の後援で開催されました。



智行基金會は、1998年に設立され、2002年から中国15省の市町村で、主に売血によってエイズに感染し死去した親の子どもたち、および母子感染によってエイズに罹患した子どもたちへの支援を行っています。支援した子どもたちの数は、現在までに累計20,000人にも上り、中国国内のエイズ支援関連のNGOとして、最も大規模かつ最も長い歴史を持つ慈善団体として活動を続けています。

智行基金會の設立者であり、現在議長を務める杜聰（とう そう）氏は、コロンビア大学、ハーバード大学で学士号と修士号を取得し、ニューヨークと香港のアメリカ系・ヨーロッパ系大手銀行でキャリアを積みました。1995年、杜聰氏は視察で河南省の農村を訪れた際、エイズ孤児たちの希望が見えない生活を目の当たりにし、「この世界に1人の銀行家がいなくても世界は変わらない。しかし私がエイズ孤児たちを助けないと手遅れになる！」と考え、智行基金會を創立しました。

エイズの影響を受けている子どもたちの多くは、差別などの困難を経験し、過酷な状況に置かれています。智行基金會は、生活や教育面での支援を行うだけでなく、精神的なサポートとして、アートを通じたカウンセリングに取り組んでおり、今回の絵画展は、そうした子どもたちの作品を一堂に展示した、日本初の展示会となりました。

11日に開催された開会式では、主催者である智行基金會の杜聰議長および藍澤宝珠東京世田谷中央ロータリークラブ会長の挨拶に続き、主催者とともに福田康夫 APDA 理事長・元内閣総理大臣、阿部俊子 外務副大臣・JPFP 副幹事長、宮本雄二元中国大使らが、テープカットを行いました。続いて、作品を描いた子どもたちより、水墨画「平和の祈り」が、福田康夫 APDA 理事長に贈呈されました。



福田康夫 JPFP 名誉会長（左）と杜聰 智行基金會議長（左奥）



阿部俊子外務副大臣（左）と藍澤宝珠東京
世田谷中央ロータリークラブ会長（右）

福田康夫 APDA 理事長は、挨拶の中で、杜聰氏らの取り組みに敬意を表するとともに、こうした活動がより広く知られるようになり、日本と中国の架け橋になることを希望しました。また、人口と開発に携わる団体である APDA としても、今後も協力を行っていくと述べました。

会場は来場者で大きなにぎわいを見せ、思い思いの色彩で描かれた各作品と、その中に込められた夢や生命力、美しい未来が、見る人の心を引きつけていました。

バックナンバーはこちらからご覧いただけます ☞ <http://www.apda.jp/topics.html>



国際人口問題議員懇談会（JFPF）事務局
（公財）アジア人口・開発協会（APDA）

TEL: 03-5405-8844

FAX: 03-5405-8845

E-mail: apda@apda.jp

Website: <http://www.apda.jp>

JFPF 入会をご希望の方は、apda@apda.jp までご連絡くださいますようお願い申し上げます。

尚、本ニュースレターの配信停止をご希望の方は apda@apda.jp までお願いいたします。